

「ふくしまからはじめよう。『食』と『ふるさと』新生運動」 会津地方かわら版

会津地方推進本部(福島県会津農林事務所)

平成26年10月31日(金)発行

平成25年度 喜多方市小学校農業科作文コンクール 大賞作品の御紹介(連載第3回)

喜多方市教育委員会では、平成21年度より標記コンクールを実施しています。

目次

- 1 平成25年度
喜多方市小学校農業科作文コンクール
大賞作品の御紹介(連載第3回)
- 2 会津地方推進本部会議について
- 3 会津農林事務所からのお知らせ
- 4 今後の行事(イベント)等



目的

- ・「豊かな心」「社会性」「主体性」の育成を目標とする喜多方市小学校農業科の成果を子どもたちの作文を通して検証する。
- ・喜多方市小学校農業科に取り組む子どもたちの感動や発見等を保護者や地域住民など広く一般市民に伝え小学校農業科に対する一層の理解を図る。
- ・広く喜多方市小学校農業科の成果を全国に発信する機会とする。

応募作品は素晴らしい作文ばかりですが、本紙では5点の大賞作品を連載で御紹介しています。

【大賞】

米づくりから学んだこと

豊川小学校 六年 穴澤 千叶

またこの時期が来た。私は田植えが嫌いだ。あの足にくる違和感。ぬるっとしていてなかなか身動きがとれない。そして何より嫌いなカエルがいる。五月、二回目の田植えの前そう思った。実際に田に入ってみると、今年は違った。確かにぬるっとしてカエルもいる。でも、苗を植えることに夢中になった。どうやらたらしいに植えられるだろうと考えながら植えた。友達と笑い合いながら。そして、違和感もカエルも忘れていた。どろだらけの足のまま、田植え後の田んぼを見て、満足感を覚えた。昨年は、早く足を洗いたかったのにと考えた。

私の家は農業をやっているわけではない。だから農業科で米づくりと言われても大変そうと思うだけだった。しかしこの二年間で、私は米づくりが好きになった。その理由は二つある。一つ目は、友達と協力できることだ。豊川小は五・六年生が協力して米作りをしている。草とりも稲かりもすべて班で行う。昔の道具を使いながら、班で相談して活動するのは楽しい。活動が終わると、私も含めみんなにご苦労さんと言いたくなる。その苦労があつて、秋においしいお米が実るのだ。そののりを収穫祭で頂く。本当においしい。お米ってこんなにおいしいのかと思った。そして、おいしいお米になってくれてありがとと思った。米作りが好きになった理由の二つ目が、食べ物に感謝の気持ちを持つからである。今まで、つくった人に感謝はしても、お米に感謝することはなかった。でも小さな苗が成長し、そののりを頂くことに命を頂く重みを感じた。お米だけじゃない。野菜やお肉やお魚。他の命を頂いて生きている。粗末にできないと思った。食べ物も。そして他の命を頂いて生きている自分自身も。

私は、この二年間で農業が米づくりが好きになった。これからも命を頂く重みを忘れずに、日々を大切に過ごしていきたいと思った。

※喜多方市ホームページよりコンクール作品集をご覧いただけます。

<http://www.city.kitakata.fukushima.jp/shimin/gyosei/14902/14980/18176/index.html>



会津地方推進本部会議について

○会津地方推進本部会議

平成26年9月26日、JAあいづ本店において、「ふくしまからはじめよう。『食』と『ふるさと』新生運動」会津地方推進本部会議が開催されました。

会津地方推進本部の構成機関・団体の構成員の方々が出席し、各構成員より平成25年度の事業実績及び平成26年度の事業計画について説明をいただきました。

構成員の皆様からは県産農林水産物の風評払拭のための取組活動や、各種イベント開催によるPR活動について紹介いただきました。



推進本部会議のようす

○意見交換会

本部会議と併せて地域の将来の農業を担う若手農業者4名にお集まりいただき、本部構成員との意見交換会を開催しました。

<意見発表者>

株式会社エガワコントラクター	江川正道氏(喜多方市)
清水薬草有限会社	清水 琢氏(喜多方市)
渡部農園	渡部 佳菜子氏(西会津町)
西会津町地域おこし協力隊	佐藤 綾子氏(西会津町)



意見発表のようす
清水 琢氏(上)
佐藤 綾子氏(下)

<意見発表者の発言内容等>

- ・自分の子供に自信をもって「農業をやりなさい」といえるような環境を作っていきたい。
- ・生産者との交流を行っており、会津伝統野菜を通じた取組を展開していきたい。
- ・通常の野菜より高い価格で販売しているが、その理由を説明して理解してもらった上で販売している。
- ・「あなたから野菜を買いたい」といわれる生産者を目指している。
- ・雇用している人の自主性を尊重した組織づくりをしていきたい。
- ・会津にはまだまだおもしろいものが眠っている。6次化を含め新たな取組を進めていきたい

※上記の他にも、皆さんから会津を愛し、自分の仕事に誇りをもった貴重な御意見をいただきました。

今後の取組に参考となる意見を多くいただき、出席者の皆様、本当にありがとうございました。





会津農林事務所からのお知らせ

○新鶴小学校 4 年生が新宮川ダムで環境学習を行いました○

会津美里町では、森林をはじめとした自然環境に親しみ保全する意識向上のために、小学校で森林環境学習を実施しており、その一環として「川の上流探し」という授業で10月20日に「新宮川ダム」に訪れました。

当日は、紅葉が始まるなか、新鶴小学校四年生25名が、新宮川ダムの概要(種類、役割など)の説明を聞き、自ら発電所内と監査路内を歩き、ダム湖の水質調査(PH)を行い、宮川の水がどのように使われているかを見聞き、体験して学びました。

最後には、児童から元気にお礼の言葉があり、ほっこりした気分になりました。

【農村整備部 新宮川ダム管理所】



授業のようす

○ふくしまの農育推進事業「田んぼの学校」について○

「ふくしまの農育」推進事業田んぼの学校の一環である、稲刈りと収穫祭が10月9日と10月24日に行われました。



稲刈り(上)・収穫祭(下)のようす



今年の稲刈りは、田植えと同様に湯川村主催『湯川村2014 豊穰の芸術祭』の一部として位置付けられ、笈川小学校と勝常小学校の5、6年生及び湯川中学校全学年で行いました。

当日は、豊穰の芸術祭実行委員である福島大学渡邊晃一教授と友人である外国人ボランティアの5名の方々が参加され、児童達と協力しながら稲刈りを行いました。

続いて収穫祭は、天候を配慮し一日延期を決定して行ったため、児童達の日頃の行いが吉と出て前日までのぐずぐずした天気が嘘のような晴天に恵まれました。

収穫祭では、稲刈りで収穫した米を炊き、児童達が班に分かれてそれぞれ協力しながら芋汁や焼き芋を作りました。

事前に、火のおこし方や調理について先生から児童に対してレクチャーがありましたが、実際にやってみると難しいもので、それぞれ試行錯誤をしながら取り組んでいました。

皆で協力して作った芋汁と焼き芋はとても美味しく、何杯もおかわりをする児童も多く驚かされました。

我々が普段何気なく口にする米や野菜は、収穫するまでに時間と労力を要します。

児童達には、食べ物に対して感謝する気持ちを忘れずに、よく食べ心も身体も健やかに育って頂きたいものです。

【農村整備部 農地計画課】

○奥会津と浜の只見線沿線交流事業について○

当事務所では、平成23年度より会津に住む浜通りからの避難住民を対象として、会津の食や文化を体験してもらう事業を行っています。

10月28日に今年度第2回として「奥会津のブナ林散策と薬用人参風呂体験」を実施しました。

当日はあいにくの雨天でしたが、大熊町や檜葉町から避難している方約20名が参加し、ガイドの須佐政孝様の案内により、金山町にある「松坂峠ブナの森」を散策しました。

散策後は、新鶴温泉で薬用人参風呂に入浴し、冷えた体を温めました。



【企画部 地域農林企画課】

ブナ林散策のようす



今後の行事(イベント)等

11月17日(月)

平成26年度 第2回 あいづ“まるごと”ネット交流会

場所：下郷ふれあいセンター 研修室
(南会津郡下郷町大字塩生字大石1000)

時間：13:30~16:00

内容

第1部 講演

講師：未来食堂代表 もりおか まりこ氏

第2部 6次化商品のプレゼンテーション、試食会

※ホームページ

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36240a/26marugoto2.html>

【会津・南会津農林事務所 企画部】



もりおか まりこ氏(左)

11月22日(土)

「おいしい ふくしまいただきます！」キャンペーン

場所：会津若松商工会議所別館1階

時間：9:00~12:00(予定)

内容：6次化商品の試食等

【会津農林事務所 企画部】

2014年11月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

【ご意見・お問い合わせ】

会津地方推進本部事務局

(福島県会津農林事務所企画部地域農林企画課内)

〒965-8501

福島県会津若松市追手町7番5号(会津若松合同庁舎2階)

TEL (0242)29-5369 FAX (0242)29-5389

E-mail: kikaku.af04@pref.fukushima.lg.jp

